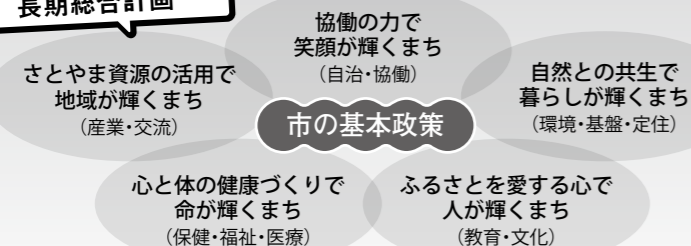


本市の将来像

“げんき”と“やすらぎ”の さとやま文化都市
～人と地域が輝く、美しい日本のふるさと～

長期総合計画



- 重点戦略プロジェクト
- 農業自立振興プロジェクト
 - 木質バイオマス活用プロジェクト
 - 観光・交流振興プロジェクト
 - 定住促進プロジェクト

新たな視点での政策

庄原いちばんづくり+
やっぱり、「庄原がいちばんええよのお〜」

地域産業のいちばん!

農林業 6次産業
商工業 ほか

暮らしの安心のいちばん!

保健・医療・介護・福祉
教育・危機管理 ほか

にぎわいと活力のいちばん!

若者定住 観光・交流
自治振興 ほか

「暮らしの安心」のいちばん

庄原地区保育所耐震化
美古登小学校耐震化

「地域産業」のいちばん

家畜飼育施設増設等補助
和牛飼育農業法人施設整備補助
農業生産法人経営高度化補助
備北材活用促進事業
超高速情報通信網整備事業
など

「いちばんづくり事業」とする「普通建設事業」

いちばんづくり事業に位置付ける普通建設事業（施設整備事業など）は次のようなものがあります。

「にぎわいと活力」のいちばん

自治振興センター整備事業
など

西城保育所改築
庄原中学校敷地整備工事、東城小学校校舎改築
など



庄原いちばんづくりは、『地域産と活力』の3つの柱（分野別政策）で構成しています。

庄原いちばんづくりは3つの柱で構成

長期総合計画は、5つの基本政策と4つの重点戦略プロジェクトで構成しています。その趣旨を踏まえつつ、「庄原いちばんづくり」という新たな視点で政策を設定しています。

庄原市長長期総合計画と庄原いちばんづくりの関係

普通建設事業は3つの柱の趣旨に照らして整理

普通建設事業は、長期総合計画の実施計画で「特定事業」としてある事業を「いちばんづくり事業」に引き継ぎ、分野別政策（3つの柱）の趣旨に照らして整理しています。



特集

Shobara Ichiban basic plan

庄原いちばん基本計画

第1期【平成25～26年度】

市は、木山耕三市長が掲げる“庄原いちばんづくり”を形にする「庄原いちばん基本計画」の第1期を取りまとめました。

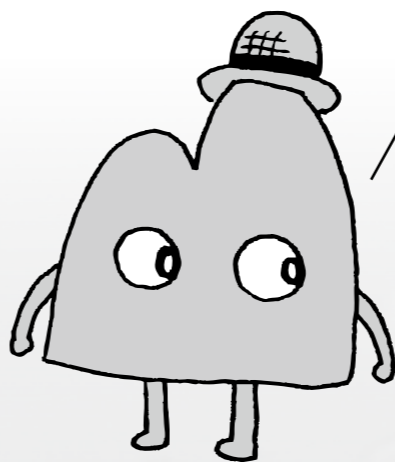
企画課 ☎0824-73-1112

やっぱり庄原がいちばんええよのお〜



新たな視点での政策
庄原いちばんづくり

庄原いちばん基本計画では、本市の将来像である「げんき」と「やすらぎ」のさとやま文化都市を実現するために、市の基本政策とは別に新しい視点で政策を設定し、その内容を整理しています。



キヨロやまくん

合併の日生まれた、庄原市の観光キャラクター。庄原の魅力を発見する特技を持つ。父は吾妻山、母は比婆山。本名が「里山博士（さとやまひろし）」というのあまり知られていない。

ヒバゴン

1970年代、比婆山連峰に出没して大いに世間を騒がせた類人猿型の謎の生き物。映画にも取り上げられ、出没から40年以上経っても全国的に知られている。



「地域産業」の柱 1 いちばん

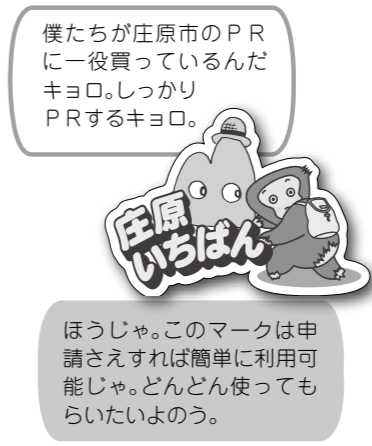
新…新規 (見)…見直し 既…既存

1 ブランド化の推進

新ブランド名「比婆牛」の復活
 広島県の認証制度に併せて本市基準による「比婆牛」認証を行い、地域団体商標制度による「比婆牛」の商標登録を行います。

既こだわり米産地育成事業
 安全・安心な米の生産を基本に、低農薬・低化学肥料などこだわりを持つた米づくりに取り組む地域を指定し、産地形成に必要な費用を助成します。

新庄原市PRロゴマークの作成と活用
 「庄原いちばん」のロゴマークを作成し、庄原産品への表示や、職員パッチ、PRのほりなどによって、庄原市を広くPRします。



2 6次産業の育成

新庄原市の逸品農林水産加工品づくり
 「高野の逸品100プロジェクト事業」をモデルに、農林水産加工品づくりを市内全域に拡大します。取り組みの内容・手法などは、観光振興計画の策定に併せて検討します。

3 農業の担い手育成

既新規就農者総合支援事業
 就農に関し、啓発、準備、初期、定着の段階に応じて総合的に支援します。

既がんばる農業支援事業（認定農業者型）
 認定農業者に重点的な支援を行い、地域農業の中心となる担い手を育成します。

既農業法人育成事業
 集落法人の組織化や組織活動を支援し、効率的・安定的な農業経営体を育成します。

4 地域木材の利用促進

広島県が行う伐採跡地の再造林を対象とした助成事業に、本市独自の助成を上乗せし、再造林を促進します。

新木の駅プロジェクトの試行
 個人山林所有者が搬出した木材を地域通貨で買い取る事業を試行します。

新J・クレジットへの取り組み
 間伐などの森林整備によって増加し



商工観光課 寺元豊樹 課長

観光は地域経済を活性化させる重要な産業という認識のもと、今後5年間の目標や施策の方向性を明らかにする観光振興計画の策定に取り組んでいます。その中で、本市の豊かな自然や美しい景観資源を生かしながら、観光客の皆さんにいかにお金を落とすだけではない仕組みを作るかが重要だと感じています。本市はおいしい米や牛肉をはじめ、県内最大級の生産量を誇る卵やりんご、大根、夏秋イチゴなど、県内屈指の食材の宝庫です。この豊富な食資源を使った食開発や加工品開発も進め、観光消費額の向上による地域経済の活性化を目指していきます。

6 地元事業所の経営支援

新超高速情報通信網の整備（26年度）
 「庄原市超高速情報通信網整備計画」に沿って民間事業者による通信網整備を支援します。

5 林業振興と

5 さとやま環境の保全

既森づくり事業の計画的な実施
 道路沿いの放置された里山林を

既再造林支援事業

既森林整備加速化、林業再生事業などの計画的な実施
 国・県の制度を活用しながら、林地境界の明確化、路網整備、間伐を一体的に実施し、森林整備を促進します。

中心に、不要木などの伐採・処理を行います。



農業振興課 平岡章吾 課長

比婆庄原地域の「岩倉蔓」は、日本最古の4蔓牛のひとつとして認定されており、この蔓牛をもとにして優秀な和牛改良が進められ、この牛は「比婆牛」と総称されました。「比婆牛」の血統を継いだ牛が全国和牛能力共進会を連覇するなど、「比婆牛」はかつて名実ともに「いちばん」であり、全国の和牛改良に大きく貢献しました。しかし、現在では全国的に血統が似通ったことで産地の特色が失われ、広島牛市場での競争力を失っています。今でも比婆牛への関心、ニーズは非常に高いものがあり、広島血統再構築の動きにあわせて、比婆血統を生かした「比婆牛」ブランドを再構築していきたいと考えています。

比婆牛って、そんなにすごいものだったんだキョロ！もっとみんなに知ってもらいたいキョロ！

わしの名前も「比婆」から来ているんじゃ。じゃが、市内でも比婆血統を持つ雌牛が減ってきているから、それをみんな守っていききたいんじゃ。

それは大変キョロ！なんとかしなきゃだキョロ！

そのために、比婆血統を受け継いだ繁殖用雌牛を「あづま蔓」として認証し、その「あづま蔓」の子の牛肉を「比婆牛」として認証して販売する仕組みを考えているんじゃ。そうすると「比婆牛」の復活で牛の価値が上がるし、農家さんもう層がんにって和牛を飼えるんじゃないかのう。

森林の多面的機能の維持を図りながら、豊かな森林資源を産業に結びつけていく必要があります。いちばんづくりでは、これまでの施策を引き続き取り組みながら、小規模山林所有者への支援策として「木の駅プロジェクト」の事業化を目指します。地域通貨による地域内の経済循環が生まれる仕組みをつくることで、山林所有者はもちろん地域商店の支援にもつながるものと期待しています。まずは家や田んぼに近い身近なところから山をきれいにさせていただくこと。山がきれいになれば、不法投棄や鳥獣被害を減らせる効果も期待できます。試行を通じて課題を整理し、本格実施につなげていきたいと考えています。



林業振興課 赤堀幹義 課長

山生まれ山育ちの僕には 林業振興はやっぱり気になるキョロ！

わしもそうじゃ。昔に比べ人が山に入らなくなったから、最近は山が荒れているように感じる。わしを見かける人がなくなったというが、わしも人を見なくなった。人の生活に欠かせない水は山が育んでる。庄原市の面積の約8割が山林じゃ。うまい農産物ができるのも山の恩恵が大きところがあるし、山の再生を願うばかりじゃ。

暮らしの安心 2 柱 の いちばん

新…新規 (見)…見直し (既)…既存

1 子育て支援の充実

乳幼児等医療費助成の拡大 (26年度見直し)

乳幼児と児童を対象に医療費自己負担(入院・通院)の一部を助成します。

【現行】対象児童は小学校6年生まで

【見直し後】対象児童を中学校3年生までに拡大

おたふくかぜ等ワクチン接種助成金 (26年度)

就学前の児童を対象に、おたふくかぜと水ぼうそうのワクチン接種費用を全額助成します。

保育料の軽減 (26年度)

第3子以降の保育所入所を無料にします。

【現行】1人入所(100%負担) 2人以上同時入所(2人目は2分の1) 3人以上同時入所(3人目は無料)

【見直し後】第3子以降は同時入所の児童の有無にかかわらず無料。第1子および第2子の1人入所、2人同時入所は現行と同様

私立幼稚園就園奨励費補助金 (26年度)

第3子以降の幼児が私立幼稚園を利用し、幼稚園が保育料などの免除を行った場合は、市が独自に助成します。

【現行】小学3年生までの児童がいる世帯は、所得に応じて保育料の保

高齢者の皆さんがいきいきと生活し活動することはまちづくりの原動力になることから、住み慣れた地域で、健康で安心して暮らすことができるよう、交流活動、介護予防、福祉サービスなどの充実に取り組みます。

【見直し後】同時入園の有無や所得に関係なく、第3子以降の保育料無償

ファミリーサポート事業利用者負担の軽減 (26年度)

一時的に提供会員の自宅などで対象児童を預かる事業で、利用者負担金を軽減します。

※利用料金600円/1時間

【現行】利用者負担金400円/1時間(3分の2負担)

【見直し後】利用者負担金300円/1時間(2分の1負担)

子育て支援に関する祝い金 (新規)

既存の出産祝い金を減額し、その減額分を入学祝い金などの支援策に活用します。

出産祝い金【見直し】(27年度)

子育て家庭の経済的負担を軽減するため、出産に際して祝い金を交付します。

【現行】第1子・第2子 20万円/人 第3子以降 35万円/人

【見直し後】第1子・第2子 15万円/人 第3子以降 25万円/人

入学祝い金【新規】(26年度)

入学に要する一時的な保護者負担を軽減するため、小学校・中学校(特別支援学校の小学部および中学部を含む)への入学に際して祝い金を交付します。

小学校入学時 2万円/人 中学校入学時 3万円/人

2 公的医療体制の整備

公的医療機関(庄原赤十字病院)の医療体制の維持・確保のため次の経済支援を行います。

小児科救急医療支援事業

小児科救急医療の365日・24時間対応を図ります。

婦人科外来医療体制確保支援事業

婦人科外来体制を維持・確保します。

公的病院医療体制整備支援事業

救急医療体制を確保するとともに、産科医療の早期再開を目指します。

3 高齢者施設への入所待機者の解消

介護保険事業計画に沿った特別養護老人ホームの施設整備(26年度)

(民間で実施・18床増)

小規模多機能型居宅介護事業所の整備支援 (26年度)

高齢者施設への入所待機者の解消に向け、在宅介護を推進するため、関係施設の整備支援を行います。

安心と生きがいを感じることのできる環境づくり

おたがいさまネットワーク事業の全地域拡大

地域(自治振興区・自治会)による「ひとり暮らし高齢者などの見守り活動」を誘導・支援し、安心を感じることのできる地域づくりを行います。

民間事業所訪問見守り事業 (26年度)

定期的に世帯訪問を行う民間事業所と市が協定を締結し、世帯の異変を感じ

じたときに市に連絡する仕組みを構築します。

敬老お祝い事業 (26年度)

100歳以上の高齢者に祝い金を交付し、高齢者の生活意欲の向上などを図ります。

【現行】1万円/人

【見直し後】1万円/人に加え、その年度100歳到達者に、別途1万円交付

5 地域防災の推進

長寿命化計画の策定

橋、下水道施設、水道施設、公園、住宅、し尿処理施設などを対象とした長寿命化計画を策定し、橋やトンネルなど、安全・安心に直結した施設の優

先的な対応を図ります。

緊急時音声告知システムの整備 (26年度)

防災行政無線による音声告知システムを全域に整備し、緊急時の告知および平常時の行政情報提供を行います。

超高速情報通信網の整備 (26年度) (再掲)

緊急時などを含めた多様な情報受信の促進を図るため、民間による超高速通信網整備を支援します。

携帯電話不感地域の解消 (26年度)

平成28年度からの事業着手を目標に、超高速情報通信網の整備に併せて調査・研究を進めます。



女性児童課 三上秀明 課長

出産祝い金は本市独自の事業ですが、継続的な負担軽減につながりにくいことや、保育料への負担感が高いことから、それぞれの制度を見直しました。こうした経済的な支援はもちろん、子育て支援センターなどの支援体制の充実など、本市の将来を担う子どもを安心して育てられる環境づくりを進めます。「子育てしやすいまち」として、若者世代の定住にも結びつけられればと考えています。

乳児医療費の助成や保育料の軽減は、パパやママも喜んでるキョロ。

子育てしやすいまちになれば若者の定住にもつながる可能性が高まるのう。



危機管理課 三玉政則 課長

災害は、その多くが予告なく突然やってきます。被災地では情報が錯綜し、人々がパニック状態に陥ることも少なくありません。被害を最小限に抑え、二次災害の発生を防ぐには、正確な災害情報の収集と地域住民への迅速な情報伝達が必要です。全世帯に確実に情報伝達でき、断線や停電などの災害による直接的被害を受けにくい情報伝達システムである防災行政無線を整備し、市民の皆さんの暮らしの安心を守ります。

いよいよ庄原にも光ファイバーがつながるんだキョロ。

光もじゃが、山奥に住むわしにとっては携帯電話不感地域の解消のほうがうれしいわい。

3にぎわいと活力 いちばんの柱

新…新規 (見)…見直し 既…既存

本市には四季を通じて楽しむことのできる豊富な自然資源やイベントがあります。本年3月に開通した松江自動車道によりアクセスも格段によくなり、市内の4カ所にインターチェンジを持つという有利な環境を持ち合わせています。
観光交流は、これらの資源や環境を最大限に活用することで、本市の「にぎわいと活力」を生み出す無限の可能性を秘めています。

このため、特産品の開発や特産物の販売促進、地域の「食」と文化の継承・活用、農家民泊の取り組みなど、観光と農林業・商工業を一体的にとらえた観光産業の振興策を推進します。
また、「にぎわいと活力」の創出には、若者の力が必要です。若者の流出を抑制し、定住促進を図る施策にも積極的に取り組めます。

1 観光交流の推進

新 観光振興計画の策定

着地型観光、広域観光、情報発信などの具体的な取り組みに関する実施計画を策定します。

新 観光振興事業の推進（26年度）

観光振興計画に基づき、次の関係事業を推進します。

- 体験型教育旅行
- 花と緑のまちづくり
- 食材の宝庫を活かした観光
- 広域周遊観光（尾道松江線全線開通の活用）
- 事業推進のための仕組みづくり
- 庄原市プロモーションの強化

2 若者定住の促進

既 新婚世帯定住促進事業

若年層（40歳未満）の新婚世帯を対象に家賃と通勤費用を助成します。

3 転入定住（U・Iターン）の促進

既 転入定住者起業支援事業

転入定住者を対象に起業を支援します。

既 転入定住者住宅取得・改修支援事業

転入定住者を対象に住宅取得および改修費用を助成します。

4 帰郷定住（U・Iターン）の促進

新（仮称）「帰ろうや倶楽部」の創設

本市への帰郷定住を「市民総ぐるみ」で展開するため、帰郷が期待できる若者をはじめ、市内事業所や自治振興区などを会員とする「帰ろうや倶楽部」を創設します。帰郷対象者に「ふるさと情報」や「就職情報」を定期的に提供し、フェイスブックの活用を前提に会員相互での情報交換や帰郷の呼びかけを行います。



自治振興課 岡野 茂 課長

庄原に住んでもらうためにはもっと庄原を知ってもらう必要があります。就職先が少ないという理由で帰郷できないという話もありますので、市内の就職情報をもっと発信していくことが必要だと感じています。そうした情報を伝える仕組みとしてまずは「帰ろうや倶楽部」をつくり、情報を必要とする方に会員登録いただいて、その方々に地元の企業情報や市の支援策、地域の話題などの情報を届けます。そこから庄原での就職活動を通じて、定住につなげていきたいと考えています。

●「帰ろうや会員」の登録

本市出身で市外に居住する学生などのうち、将来、本人や家族が帰郷を希望する人を「帰ろうや会員」として登録。「ふるさと情報」や「就職情報」を定期的に提供し、継続的な帰郷の呼びかけを行います。

●「応援事業所」の登録

「帰ろうや会員」に就職情報を提供できる「応援事業所」を募集・登録し、職員募集の情報を市や対象者に提供してもらいます。

●「応援団体」の登録

この事業に賛同する自治振興区や団体・グループなどを「応援団体」として募集・登録し、「ふるさと情報」の提供や帰郷の呼びかけなどを行います。

新 庄原暮らし出前講座事業

若年層の地元理解や定住意識を促進するため、市職員や市内で働く先輩などが地元の高校に出向き、卒業する生徒を対象に庄原での就業や余暇の楽しみ方、多様な活動などを紹介する講座を開催する。

5 若者の定住奨励

新 若者定住奨励事業（26年度）

市内に居住する若者（40歳以下）の定住を奨励するため、本市に定住することを前提に次の奨励金を交付します。

●雇用促進奨励金の交付

市内に居住する若者（40歳以下）を雇用した事業所（市内の事業所に限る。官公署などを除く。）に奨励金を交付します。

【内容】就職から6月経過後に10万円／人

●あつぎ促進奨励金の交付

市内に居住する若者（40歳以下）であつて、家業（兼業を除く）の後継者となった者に奨励金を交付します。

【内容】市長が後継者として認定後に10万円／人

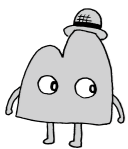
●起業促進奨励金の交付

市内に居住する若者（40歳以下）が生業として起業した場合に起業促進奨励金を交付します。

【内容】起業後12月経過後に10万円／人



ほうじゃ。庄原市が観光先や移住先の選択肢に入るには、庄原市のことをもっと知ってもらわんといけんのう。



庄原市の魅力をもっと知ってもらう必要があるんだキョロ！

オール庄原で庄原市を盛り上げましょう

「庄原いちばん基本計画」は、社会環境などの変化に対応するため、2期に分けて策定しています。第1期でまとめた施策・事業を最優先で取り組みながら、次の第2期へつなげていきます。

市民の皆さんが「やっぱり、庄原がいちばんええよのお」と思える庄原市を目指し、一つ一つ着実に事業を実施していきます。



木山 耕三 市長